

# ハツ場ダム建設事業の検証に係る検討 目的別の検討経緯

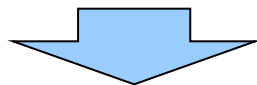
平成２３年９月１３日

国土交通省 関東地方整備局

# 複数の治水対策案の検討経緯

## ●河川整備計画相当の目標の設定

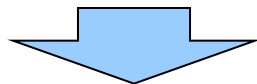
利根川水系は河川整備計画が策定されていないため、河川整備計画相当の目標流量を17,000m<sup>3</sup>/s（八斗島地点）と設定



## ●複数の治水対策案の検討

「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目（以下、「検証要領細目」という。）」に示されている26方策を参考にして、様々な方策を組み合わせ、次に示す4分類毎に複数の治水対策案を検討（20の治水対策案）

- I. 河道改修を中心とした対策案（4案）
- II. ダムを含む既存ストックを有効活用した対策案（3案）
- III. ダム以外の大規模治水施設による対策案（7案）
- IV. 流域を中心とした対策を最優先し、不足分を河道掘削を中心とした対策案（6案）



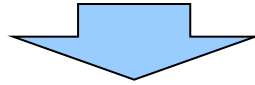
## ●概略評価と7つの評価軸ごとの評価

複数の治水対策案（ハッ場ダムを含まない案）について概略評価を行い、I～IVの各分類別に、河道掘削案、渡良瀬遊水地案、新規遊水地案、流域対策を中心とした案を抽出し、これらにダム案を加えた5案からなる治水対策案について、「検証要領細目」に示されている7つの評価軸について評価を行った。

# 複数の利水対策案の検討経緯

## ●目標の設定

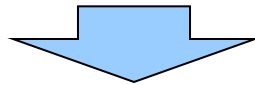
八ッ場ダムの利水参画者に対し、ダム事業参画継続の意思及び必要な開発量について確認を要請したところ、全員が継続の意思を表し、必要な開発量の合計は22.209m<sup>3</sup>/sであった。水需給計画の点検結果を踏まえ、八ッ場ダムの開発量は合計22.209m<sup>3</sup>/sを確保することを基本とした。



## ●複数の利水対策案の検討

「検証要領細目」に示されている17方策を参考にして、様々な方策を組み合わせ、次に示す4分類毎に複数の利水対策案を検討。（12の利水対策案）

- I. 水単価が500億円未満の代替案の組合せ（2案）
- II. 水単価が1,000億円未満の代替案の組合せ（4案）
- III. 水単価が1,500億円未満の代替案の組合せ（2案）
- IV. 環境への負荷が少ない方策の組合せ（4案）



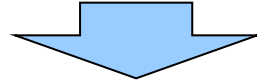
## ●概略評価と6つの評価軸ごとの評価

複数の利水対策案（八ッ場ダムを含まない案）について概略評価を行い、地下水取水が可能と考えられる利水対策案のうち、水単価が1,000億円未満の方策で構成される利水対策案を抽出し、これにダム案を加えた5案からなる利水対策案に対し、「検証要領細目」に示されている6つの評価軸について評価を行った。

# 流水の正常な機能の維持の検討経緯

## ●目標の設定

八ッ場ダムの直下流において $2.40\text{m}^3/\text{s}$ を確保することを基本とした。



## ●複数の対策案の検討

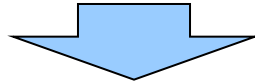
「検証要領細目」に示されている17方策を参考にして、様々な方策を組み合わせ、次に示す2分類で複数の流水の正常な機能の維持の対策案を検討。（11の対策案）

I. 八ッ場ダムによる利水放流を考慮する場合（5案）

II. 八ッ場ダムによる利水放流を考慮しない場合

① 発電ガイドライン放流が概ね $0.7\text{m}^3/\text{s}$ 程度の場合（5案）

② 発電ガイドライン放流が概ね $2.1\text{m}^3/\text{s}$ 程度の場合（1案）



## ●概略評価と6つの評価軸ごとの評価

複数の流水の正常な機能の維持の対策案（八ッ場ダムを含まない案）について概略評価を行い、水単価が1,000億円未満の方策から構成される対策案を抽出し、これにダム案を加えた6案からなる流水の正常な機能の維持の対策案に対し、「検証要領細目」に示されている6つの評価軸について評価を行った。